令和元年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部
（全国治水砂防協会千葉県支部長賞）

「　悲劇を繰り返さないために　」

千葉県　柏市立柏第二中学校　１年　中村（なかむら）　優衣（ゆい）

2018 年 7 月 3 日、「台風は西日本を襲い 13 府県で土砂崩れや浸水が相次いだ。」というニュースを見ました。ニュースの映像には見るも無残にこわれている家、1 階は浸水し 2 階に取り残されている住民、私は思わず絶句しました。昔、旅行に行き見た景色は今、テレビの画面の中でこわれていっているのです。

私は考えました。私が今、被災地のために何ができるのかということです。ですが私が今できることは何もありませんでした。自衛隊や消防は今でも被災地で被災者を助けていることができるのは備えがあったからだと思います。単に備えがなかった私はニュースを見て絶句する事しかできませんでした。

そして発生から 72 時間が過ぎ、ニュースの状況は悪くなっていきました。それと同時に遺体として発見された人の家族の思いを想像するととても胸がしめつけられました。元はただの豪雨だと見くびっていたかもしれません。私もそう思ってしまっていました。ですがただの豪雨だと思い避難がおくれ、最後に家族へのお別れも言えず土砂で流されたりがれきの下じきになって死んでいくことしかできなかった人もいたとしたら、その家族だってその人にこう言っておけばよかったなと悔いを残して残りの人生を生きていかなければならないかもしれません。そんな人生、私だったらたえられないと思います。だから人は「自分ではなくてよかった。」と心の片隅で安心してしまうのかもしれません。「被災地の人は大変そう。」と思っても次の一歩が進めない人もいると思います。これは仕方のないことかもしれません。でも「仕方のない事だからしょうがない」とかたづけていってしまうという現状を変えていかなければ未来にもし、また土砂災害が起きた場合、同じ過ちをおかしてしまうのではないでしょうか。たとえ自衛隊や消防が人々の安心をまもってくれているとしても一番自分の身をまもれるのは自分です。現在、自然災害は人間の力で全てを発生させないようにするのは不可能だと言われています。だからこそ防ぐことができないならば備え、体を守ることを優先的に考えることそれこそが死者や行方不明者を減らしていく一歩だと私は思います。また、年々、異常気象が増え自然災害も大規模化してきています。そんな中で防災訓練に参加し、もしもの時、冷静に判断することさえできれば大きくちがうのではないでしょうか。

今回、西日本を襲った豪雨による被災者は 2018 年 7 月 9 日時点死者 126 人、行方不明者 79 人とまれに見る大規模土砂災害となりました。私はこの災害を絶対に風化させたくありません。これだけの死者が出たにもかかわらずこの災害を忘れていくということは死んでしまった人たちの命をむだにすることはもちろん、家族はもっと苦しむかもしれません。なぜなら長い間過ごした大切な人が一瞬にしていなくなり風化してしまったとしたら苦しみすらわかってもらえないまま生き続けるのです、こんなに悲しいことはないと思います。だから風化をさせず、災害について備え、同じ過ちをおかさないことこそが被災者やその家族の助けになるのではないかと思います。

私はこのニュースを見ることで土砂災害についてのことを深く考えることがとてもできたと思っています。できることならば災害は起きないほうがいいと思います。ですがニュースをみて少しでも土砂災害のことを考え備えることを多くの人が実践することができれば今より安心した生活を毎日送れる人が増えていくと思います。そうやって土砂災害で死者のない世界を作っていければいいなと思っています。